平成 29 年度　文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+)」地域ビジネス力強化支援事業

若者の定住と働き方を考える
地域円卓会議 in 西原町

大型 MICE 施設整備等の大きな変化が迫る中、
文教のまち西原町らしいまちづくりを大学や学生と考える

実施報告書

日　　時：　2017 年 9 月 1 日（金）18:30-21:00
場　　所：　西原町町民交流センター（中ホール）（沖縄県西原町字与那城 140-1）
主　　催：　国立大学法人 琉球大学 地域連携推進機構、
　　公立大学法人 名桜大学 地域連携機構、西原町
協　　力：　公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく、
　　沖縄キリスト教学院大学

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

【報告】若者の定住と働き方を考える地域円卓会議 in 西原町

■日　　時：2017 年 9 月 1 日（金）18:30-21:00
■場　　所：西原町町民交流センター（中ホール）
■着席者数：9 名（論点提供者、司会、記録者含む）
■来場者数：37 名（企業・行政・NPO・教員・学生）
■主　　催：国立大学法人 琉球大学 地域連携推進機構
　　公立大学法人 名桜大学 地域連携機構、西原町
■協　　力：公益財団法人みらいファンド沖縄
　　NPO 法人まちなか研究所わくわく
　　沖縄キリスト教学院大学
■お問合せ：国立大学法人 琉球大学 総合企画戦略部
　　地域連携推進課

論点提供　**玉那覇 敦也**氏（西原町役場 建設部 産業観光課 主幹）

大型 MICE 施設整備等の大きな変化が迫る中、文教のまち西原町らしい観光まちづくりを大学や学生と考える

西原町は、大学をはじめとした多くの文化教育施設が立地する地域特性を活かし、すべての町民が生涯を通して学びあい、より豊かな人間性と文化を創造する「文教のまち西原」を推進しています。各種文化教育施設で学ぶために町内外だけでなく県外や海外からも多くの学生が集まりますが、大学等卒業後は転出し、卒業生が地域に定着できていないという実情もあります。そんな西原町を含む中城湾港マリンタウン地区に大型 MICE 施設の建設が決定され、西原町は今後、大きく変化していくことが予想されます。今回の地域円卓会議では、大学との協働により、大型 MICE 施設整備等で国内外から多くの人が訪れることが予想される中、観光のまちづくりを推進するにあたって、学生という資源と地域との関わり方について、多様な知見を有するメンバーの皆様で考察し、卒業後も愛着を持って西原町に住み、地域を盛り上げていけるようなまちづくりについて議論します。

センターメンバー

玉那覇 敦也
西原町役場建設部産業観光課 主幹

比嘉 利和
千原自治会 会長

下地 芳郎
琉球大学 観光産業科学部 教授

近藤 哲司
(有)キャプテンリゾート 代表取締役

崎原 柚菜
西原高校 2 年 NS2BP 役員

趙 恩智
琉球大学大学院 修士 1 年

宮城 栄作
沖縄タイムス社 政経部長

➢ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- 西原町の基礎情報
  - ✓ 人口は、1980 年 16,305 人だったのに対し、2015 年には 34,508 人と激増している
  - ✓ 外国人の人口 368 人。基地の無い町としては多い。琉球大学の留学生が影響していると考えられる
  - ✓ 年少・生産・老年人口は、県の平均とほぼ変わらず、平均的な人口構成である
  - ✓ 一世帯あたりの人口は 2.7 人で毎年減少している
  - ✓ 昼間に工業地帯へ働きに来る人や大学に通う人が多いため、昼間人口のほうが夜間人口よりも多い。昼間人口は 40,357 人、昼夜人口比率は 116.9%で、恩納村に次いで県内 2 番目に高い比率となっている
  - ✓ 学生 1,400 名が住んでおり、宜野湾市に次いで学生が住む数は多い
  - ✓ 産業構造は 1 次産業 264 名、2 次産業 2,397 名、3 次産業 11,141 名で、3 次産業が多い
  - ✓ 平均所得は一人当たり 202 万円で県内 26 位
  - ✓ 小学校 4 校、中学校 2 校、高校 1 校、大学 4 校（放送大学も含む）がある
  - ✓ 人口ビジョンは、2060 年に 39,000 人を目指す。MICE 周辺地区や西地区での社会的人口増と、出生率 2.3%まで向上させ、自然増加も目指す
- これからの西原町の大きな変化要因
  - ① 平成 32 年完成予定の MICE 施設の誘致
  - ② 西地区区画整理、宅地造成
  - ③ 沖縄都市モノレールてだこ浦西駅への延伸、沖縄自動車道のインターチェンジ（幸地ＩＣ）の設置
  - ④ 西原町農水産物流通・加工・観光拠点施設開設
- これからの西原町の課題【ハード面】
  - ① 農水産物加工流通・観光拠点施設への野菜提供を可能とする農地の高度化のための優良農地確保
  - ② 製造業、物流の拠点として工場用地の確保
  - ③ MICE 施設周辺地域の開発のための商業用地を拡充
- これからの西原町の課題【ソフト面】
  - ① 観光計画を策定中
  - ② 琉球大学生及び留学生、地域との交流
  - ③ 新規就農者の育成
- 平成 26 年に琉球大学・西原町商工会・西原町と包括連携協定を締結した
- 包括連携協定の取り組みとして、NS²BP（西原町学生ソーシャルビジネスプロジェクト）を開始。西原町在住の高校生と大学生が西原町をボランティアで PR している。現在、パンプロジェクト、石鹸プロジェクト、さわりんと運玉義留の演劇を実施中
- 西原町に進出したい企業を受け入れるには土地の用途変更が必要だが、那覇広域事務組合に属しているため、都市計画の用途変更は西原町だけでは決めることが出来ない
- 新大型 MICE 施設
  - ✓ 規模は 4 万平米で、横 500m、幅 80m
  - ✓ 展示会や多目的ホール、商業施設、会議施設、ビーチやマリーナなどを整備
  - ✓ 宜野湾市コンベンションセンターでは対応できない規模の人数が対応可能。コンサート 2 万人以上動員可能（コンベンションセンター4 千人）
  - ✓ 建設費用は 500 億円で、一括交付金を使用。内閣府から計画に修正が入っている状況
- 西原町内の自治会が老齢化しており、老人会は沢山ある。また、青年会、婦人会は少ないのに対し、子ども会は活性化している
- 西原町内には 32 行政区自治会がある。千原自治会は学生比率が高く、学生向けのアパートが 372 戸（寮含まず）あるが、琉球大学との接点がない
- 千原自治会で琉球大学のサークルにエイサーの披露をしてもらえないかと話をしたことがあるが、断られた
- 地域が琉球大学と接点を持ちたいと思った時に大学側の窓口がどこかわからない
- 琉球大学側の窓口は地域連携推進課が担当している
- 琉球大学の韓国からの留学生は、観光学部に 10 人くらい。琉球大学全体では、留学生 300 人くらいが所属している
- 現在は、留学生同士の交流はあるが、地域との交流はほとんどない

視点の提供

- 耕作放棄地はあるが市街化調整区域が多いため住宅が建てられない。それが発展の阻害要因なのでは？
- 西原町住民向けのアンケートで 7～8 割が「この町が好き、静けさが好き」と答えている。環境が変わることに対して、戸惑いやネガティブな部分もある
- 何千食の弁当を地元業者が提供できない。MICE 施設を利用している人ではなく、ホテルに泊まっている家族向けに細かなサービスを提供することはできるのでは？
- MICE 施設の誘致により、住環境が悪くなる。地域住民から捉えると期待はあまりない

- きらきらビーチでうたの日コンサートが開催された際に 5 万人が訪れたが、訪れる人達の目的がビーチを利用することではなく、コンサートだったためビーチでの売上収入は低くなった。地域の人が潤うには仕組みが必要
- MICE 施設に関係する業者は、大きな企業。イニシアティブをとって地元業者が仕事をしていき孫請け・下請けになれるよう考えていくと良いのでは
- MICE 施設へのアクセスが課題としてあり、東海岸地域の公共インフラの問題は避けては通れない
- 沖縄都市モノレールは定時運行しているので、延伸されることで、西原町内の渋滞緩和に繋がるのではないか。MICE 施設までのばしたらどうか？
- NS²BP のような取り組みが、役所の予算がなくても地域が継続できるようにしていけるかが課題ではないか
- これからの地域メディアの役割は、地域の課題、地域の人たちの思い、地域の発展について考えるきっかけを与えることなのでは。地域の課題を取り上げて、考えてもらい、解決策を考えることができる。MICE 施設をきっかけにして、ひとりひとりが問題意識を持って語っている。顔が見える繋がりで、一緒に課題解決を考え、メディアも主体的に関わっていく形が求められてくる
- 西原町と琉球大学で連携すれば、人、資源の共有ができ、継続的な活動につながる。琉球大学は総合大学として、7 つの学部の資源を地域課題にどう活かすか、動いていくことで、できることできないことがみえてくるのでは
- MICE 施設をどうするか？だとスケールが大きすぎる。農水産物流通・加工・観光拠点施設のほうが地域では考えることができる
- 那覇市ではモデル校を選び、観光学習教材を活用した取り組みを行う方向にすすんでいる
- MICE 施設についての情報が地域と共有できていない。企業、学会、国際会議、それぞれの役割を学び、個別に考え、経済効果や教育的効果について考えるべき。様々な幅広い分野がある MICE 施設についての情報共有がまず必要なのでは
- MICE 施設で通訳や文化交流という面で交換留学生が活躍できる場があるのでは
- 今後、変化が起こる西原町は、地域整備、地域協力、地域人材の育成が求められてくる
- MICE 人材育成ビジョンをつくり、いつまでにどれくらいの人を要するのか、MICE の持つ意味に即した、幅広い人材育成にどう関わっていくのか考えていくことが必要
- MICE 施設ができることで、世界の情報が集まる場所が近くにでき、西原町の子どもたちが最先端の情報に触れられる。地域住民の生涯教育ともなる
- もともとある西原町の観光資源を観光まちづくりの観点で掘り起こし、磨き上げをする必要がある。そのためには、地域の人たちだけでは気づかない視点を、大学・学生（外国人留学生も含めて）と見つけていくのも必要
- 西原町は琉球大学を観光資源とし活かせるのでは
- 観光学習教材（観光コンベンションビューローが作成）を教材にして地域の良さを発見できるよう、大学生が先生になって、地域の子どもたちとコミュニケーションをとっていく取り組みをしてはどうか
- 観光を考えることは、地域を考える、地域づくりとなる
- 学生が主目的としてまちづくりに関わることはない。大学の運営側が「地域で学生にどう学んでもらうか」という視点と、地域が「まちづくりへの参画を学生にどう動機付けるか」という視点、どちらも必要。きっかけづくりをし、徐々に広がっていければ良い

評価の提供

- 西原町のきらきらビーチは、MICE 施設によって、交流人口が増えてくると考えられる。現在は、ビーチ利用者の 95%は地元の人。地元の人に愛されているビーチと言える
- 現在の西原町への大学の関わりは、個々の教授や学生が関わっているのが現状
- 西原町は、歴史と文化資源がある。観光と教育の観点から動いていくことが町の強みとなり、マリンタウン施設周辺以外で観光を持つ意義になる
- 西原町は、各地域との連携の仕方で、自治会間にも格差があるが、子どもたちに丁寧にかかわっているため、子どもたちのパワーが強いのではないか
- NS²BP で、高校生が町を元気にする取り組みを主体的に行っているのは良い
- MICE 施設についての情報共有をしたうえで、西原町の産業振興にどう絡めるのか？例えば、国際会議や学会が行われるため、地元の子どもが世界的権威の人と出会える、学びの機会になる可能性もある

➢ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 大学の資源を活用するために、地域との連携窓口を大学に作る
- 「文教のまち」を主軸に、共に地域づくりと観光を考える場を
- 共に MICE 活用に対する理解を深め、地域に波及させる協働プランを議論する

■参加者によるサブセッション

「変化が迫る中、期待すること懸念すること」（原文のまま）

① ハード　モノレールをうまく通す
　　いかにうまく使うか
　ソフト　MICE のＦＩＴとの交流企画
　　留学生・地域連けい

② 活性化

③ MICE よりも新農産加工・観光拠点をベースに市民参加、受益を検討する機会をつくるべき

④ 交通が不便なのでモノレールを通してほしい
〈期待〉
・高校生が頑張っているということで見に来たり体験など
・ＮＳ２ＢＰでパーラーをだす！（高校生）
地元の企業さんと連携して

⑤ 期待すること
・身近な存在としてぞうりで展示会等に行ける
・県外に行く必要がないため、個人負担㊀
・アフターMICE の施設
・情報の最先端
・新たな（スキマ的な）ビジネスの展開
↑語学を使った通訳（学生による）
懸念すること
・MICE 目的だけになることで西原町にお金が落ちないこと
・交通渋滞により住みにくい町に
・地域住民の理解
・語学の壁

⑥ MICE
●観光客増が期待できる。
●広域連携が必要になる。
・亜海外にはキョウイである　期待
△質をあげないといけない。
△地域に受け入れる力があるのか
△変化が恐い（地域住民）　ケネン
・経済効果が期待

⑦ 期待：地域を色々な方達に知ってもらえる
懸念：税金など、県外の企業などになり、地元の企業はどうなるのか？
：アフターMICE はどうするか
　西原町は沖縄県の産業の発展にこうけんした町である（歴史的に）→観光資源として伝えられるようにしたい

⑧ ・ゴミ　環境問題
・地域が思う様になるのか？
・町民がどうしたいのか考えて！
・静かな町がうるさくなる！
・道路混みを町民は考えよう！
・県全体周辺

⑨

	MICE	モノレール
よい点	①大学の研究 ②Business の交流人口↗ →認知度ＵＰ！ ③沖縄の文化･歴史をアピールする	①身近じゅうたいの解消かんわ ②観光客が増加
心配点	①地元の人々の環境が変わってしまいとまどう人がいる（静→さわがしい） ②地元にお金/利益がおちないのでは？ →施設のまわりの協力が必要	

若者の定住と働き方を考える地域円卓会議 in 西原町
参加者アンケート集計

◆概要

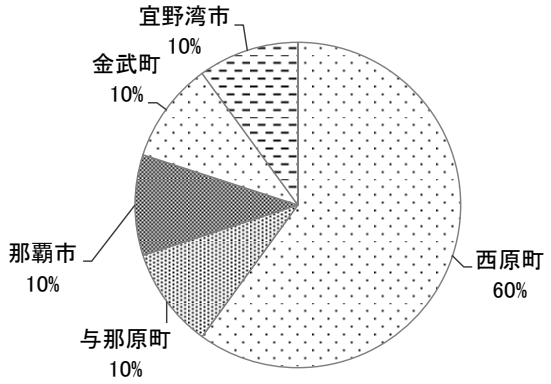
・日時：2017 年 9 月 1 日（金） 18:30-21:00

・場所：西原町町民交流センター（中ホール）

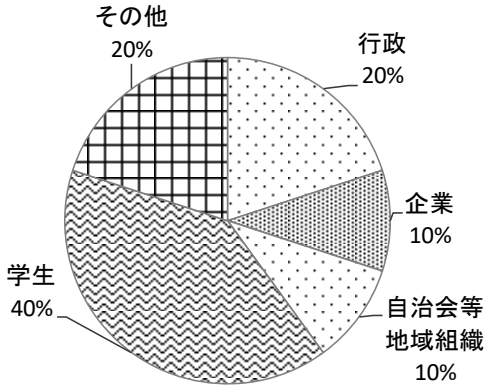
・着席者：9 名（論点提供者、司会、記録者含む）

・参加者：37 名（アンケート回収 10 名、回収率 27%）

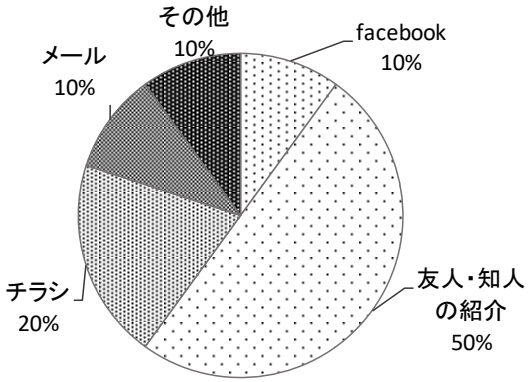
１．どちらから？



２．所属



３．円卓会議はどのように知ったか



４．満足度

平均：4.4（5 点中）

5. 満足	4. 概ね 満足	3. ふつう	2.あまり 満足して ない	1. 不満足
4 名	6 名	0 名	0 名	0 名

５．満足度の理由

（5．満足）

- 議論を見るのが初めてだから。大人達の真剣さを見れたから
- 普段聞けないような意見が聞けたのでこれからの学校生活で活かせると思った
- 普通の講演等にはない身近な話し合いのような感じでとても良かったと思います
- 西原町の今後の取り組むべき課題（町づくり）が聞けた感がある

（4．概ね満足）

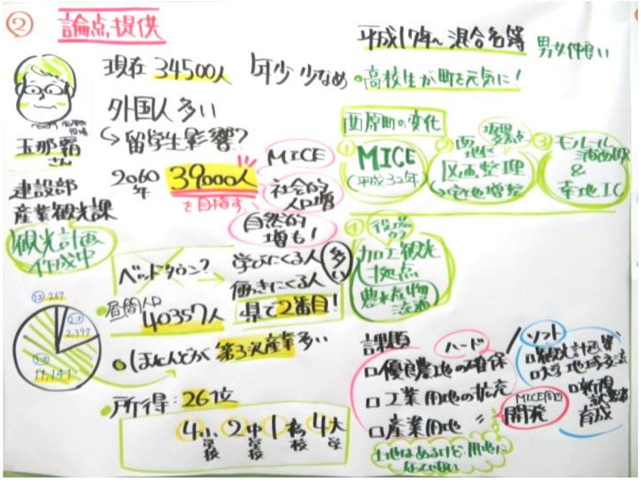
- 他市町村が考えること。地域住民の関わり方が非常に参考になった。（強みと弱み）
- いろいろな方面からの意見や見方を聞く事ができたから
- この場でのいろいろな声を、これからの私達の活動に反映できると思ったから
- 色々な価値のあるはなしが聞けた
- 質疑応答があるとより多視点の話がきけたと思う
- 専門家としてのむずかしい話ではなくて、身近な方々の様々な意見や思いを聞くことが出来、とても良かった。考えさせられる意見などもあり、勉強になった

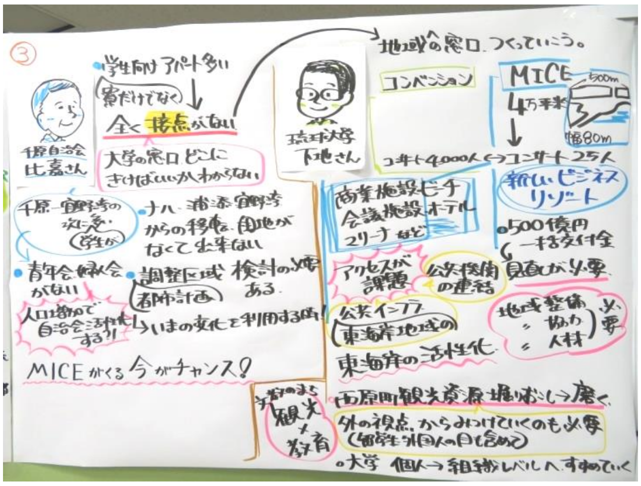
６．印象に残ったこと

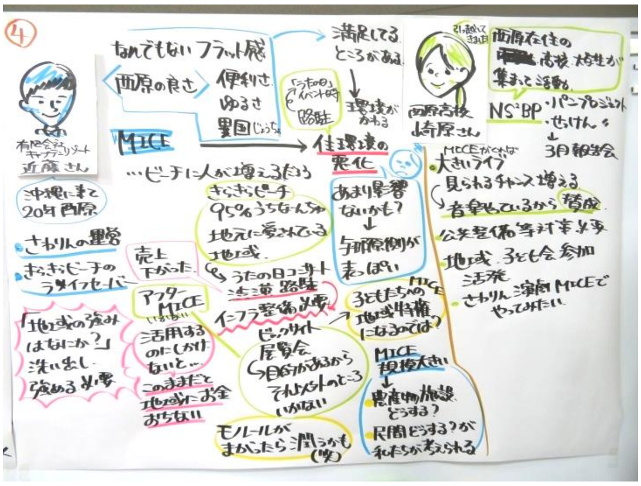
- 西原町の観光資源についての話が印象に残りました。また、琉球大学との連携をどのようにして行くのか
- キャプテンリゾートの近藤さんのお話がすごくふに落ちました
- MICE が必ずしも地域の方に受け入れられているわけではない
- どの市町村の住民も同じ考えがある部分に共感
- 観光と地域づくりは一体という話が印象に残りました
- 地元愛がさらに増すような気がしました
- モノレールを西原まで通す
- 町づくりをするにやっぱり町の財政が豊かでないといけないと思います。マイス施設を誘致して観光客のおとす（？金）が町に波及効果が出るよう、マイス施設の件の話が出たのが印象的でした

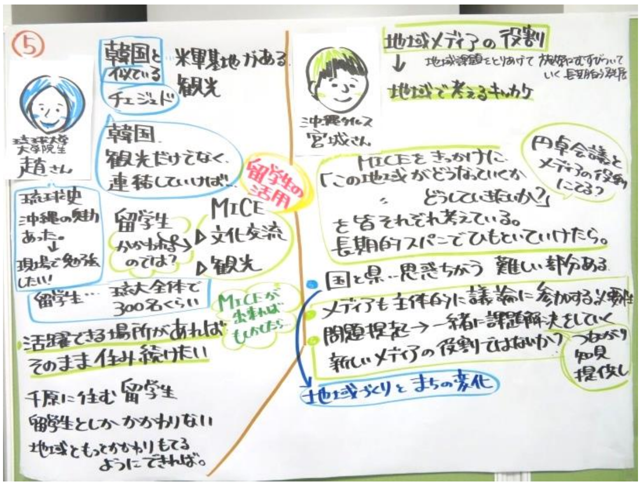
（写真）会場の様子

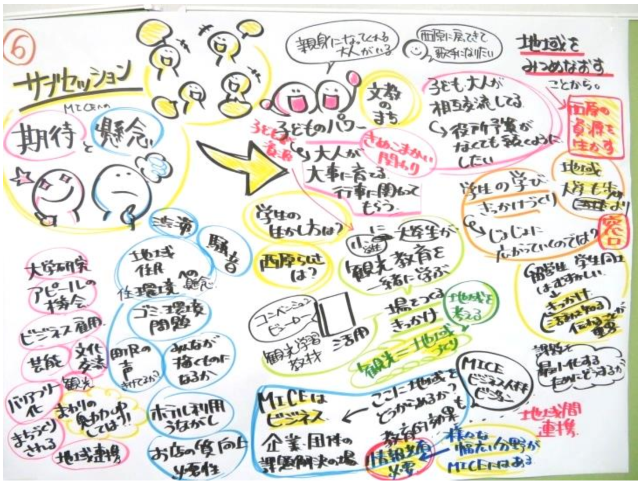
①
若者の定住と働き方を考える
2017年9月1日(金)
18:30~21:00
地域円卓会議
in 西原町
会場
西原町民交流センター
主催
琉球大学 名桜大学
西原町
テーマ
大型MICE施設整備等の大きな変化が迫る中、文教のまち西原町らしい観光まちづくりを大学や学生と考える
司会 平良
沖縄タイムス 宮城
琉球大学大学院生 趙
西原高校 NS2BP 崎原
千原自治会 比嘉
琉球大学 下地
円卓会議
琉球大学×名桜 COC+
地域創生
若者定着
雇用創出
協定・協働に向けて!!

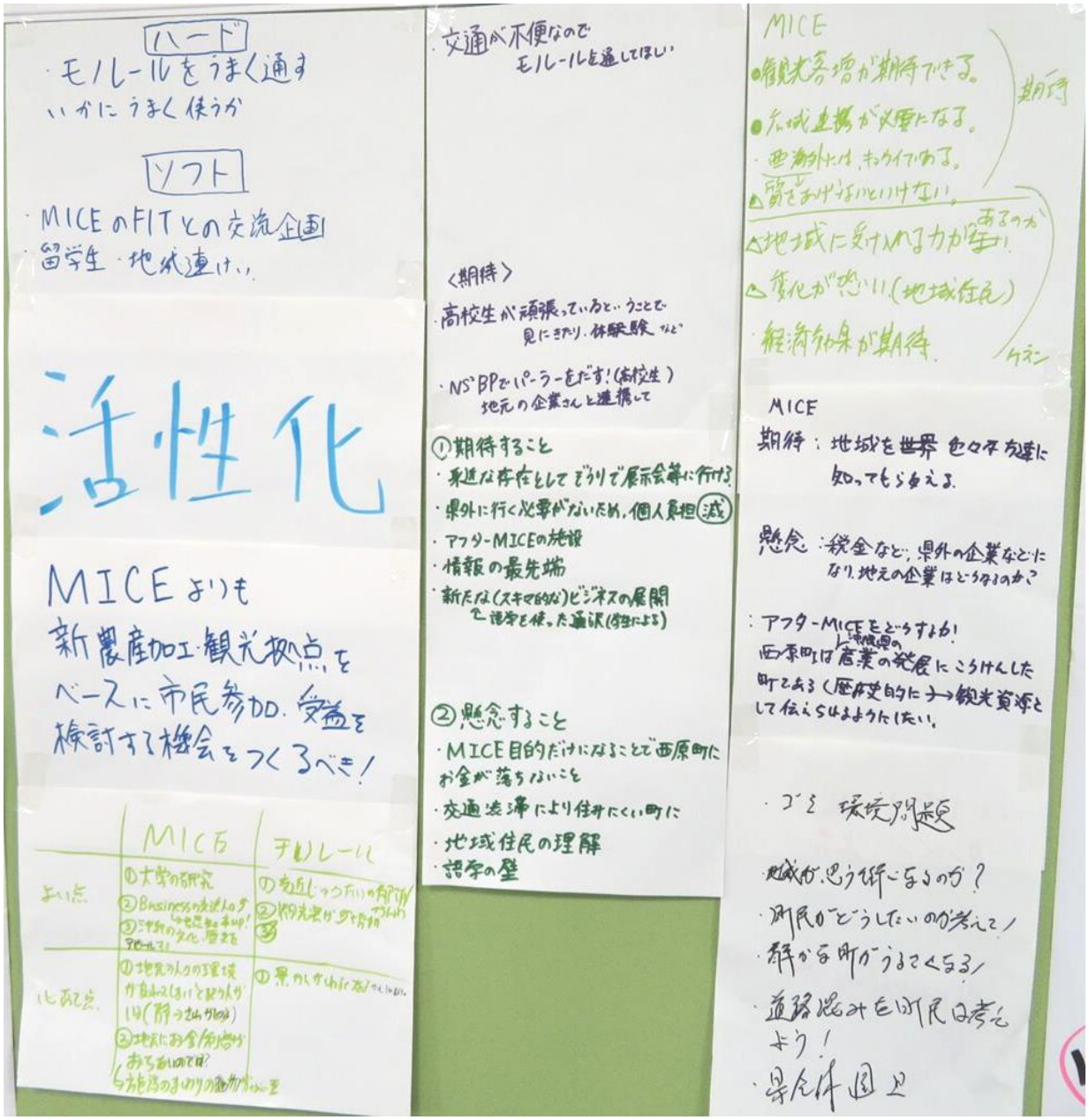

②
論点提供
玉那覇さん
建設部 産業観光課
現在 34500人
外国人多い
留学生影響?
2060年 39000人を目指す
MICE
社会的人口増
自然的増も!
観光計画作成中
ベッドタウン?
学びにくる人 働きにくる人
昼間人口 40357人 県で2番目!
ほとんどが第3次産業多い
所得:26位
4小、2中、1高、4大学
西原町の変化
MICE
区画整理
モノレール
幸地IC
加工観光拠点
農水産物活用
課題
ハード
ソフト
優良農地の確保
工業用地の拡充
産業用地
開発
育成


③
学生向けアパート多い
全く接点がない
千原自治会 比嘉さん
大学の窓口どこにきけばいいかわからない
青年会・婦人会がない
人口増加で自治会活性化するか!?
MICEがくる今がチャンス!
地域への窓口つくっていこう。
琉球大学 下地さん
コンベンション
MICE
商業施設・ビーチ
会議施設・ホテル
アリーナなど
新しいビジネスリゾート
500億円
アクセスが課題
公共機関の連結
見直しが必要
公共インフラ
東海岸地域の活性化
地域整備
協力
人材
必要
文教のまち
観光×教育
西原町観光資源掘りおこし・磨く
外の視点からみつけていくのも必要
大学 個人→組織レベルへすすめていく


④
なんでもないフラット感
西原の良さ
便利さ
ゆるさ
里国じっち
満足してるところがある
有限会社キングアンドリゾート 近藤さん
MICE
住環境の変化
…ビーチに人が増えるだろう
沖縄にきて20年西原
さわりんの豊富
きらきらビーチのライフセーバー
きらきらビーチ 95%うちなんちゅ 地元に愛されてる地域。
売上下がった
アフターMICE
活用するのにしかけないと…
このままだと地域にお金みちない
「地域の強みはなにか?」洗い出し 強める必要
インフラ整備必要
ビーチサイド居酒屋
モノレールがまがったら潤うかも
あまり影響ないかも?
与那原側が悪っぽい
子どもたちの地域特権になるのでは?
MICE規模大きい
農産物施設どうする?
民間どうする?
西原高校 崎原さん
西原在住の高校・大学生が集まって活動
NS2BP・パンプロジェクト
3月報告会
大きいライブ
見られるチャンス増える
音楽やっているから貢献
公共整備等対策必要
地域子ども会参加活発
さわりん演劇MICEでやってみたい


⑤
韓国と似ている
米軍基地がある
チェジュド 観光
琉球大学大学院生 趙さん
韓国 観光だけでなく、連結していければ
留学生の活用
琉球史 沖縄の魅力あった。現場で勉強したい!
留学生
MICE
文化交流
観光
活躍できる場所があれば、そのまま住み続けたい
千原に住む留学生
留学生としかかかわりない
地域ともっとかかわりもてるようにできれば。
地域メディアの役割
地域で考えるきっかけ
沖縄タイムス 宮城さん
MICEをきっかけに「この地域がどうなっていくか」「どうしていきたいか?」を皆それぞれ考えている。
長期的スパンでひもといていけたら。
円卓会議とメディアの役割になる?
国と県…思惑ちがう 難しい部分ある
メディアも主体的に議論に参加する必要
問題提起→一緒に課題解決をしていく
新しいメディアの役割ではないか
知見提供し
地域づくりとまちの変化


⑥
サブセッション
期待と懸念
地域をみつめなおす
文教のまち
子どもたちのパワー
大人が大事に育てる
学生のはかし方は?
西原らしさは?
観光教育を一緒に学ぶ
大学研究アピールの機会
ビジネス展開
ゴミ・環境問題
地域住民
ホテル利用
お店の質向上
MICEはビジネス
企業団体の課題解決の場
情報発信必要
地域間連携
窓口


ハード
・モノレールをうまく通す
いかにうまく使うか
ソフト
・MICEのFITとの交流企画
・留学生・地域連けい
活性化
MICEよりも
新農産加工・観光拠点を
ベースに市民参加・受益を
検討する機会をつくるべき!
MICE
モノレール
よい点
悪い点
・交通が不便なので
モノレールを通してほしい
〈期待〉
・高校生が頑張っているということで
見にきたり、体験験など
・NSBPでパーラーをだす!(高校生)
地元の企業さんと連携して
①期待すること
・親近な存在としてどうりで展示会等に行けた
・県外に行く必要がないため、個人負担減
・アフターMICEの施設
・情報の最先端
・新たな(スキマ的な)ビジネスの展開
②懸念すること
・MICE目的だけになることで西原町に
お金が落ちないこと
・交通渋滞により住みにくい町に
・地域住民の理解
・言葉の壁
MICE
期待
・観光客増が期待できる。
・広域連携が必要になる。
・西海外とは、キョウイである。
・留学をみせなければいけない。
・地域に受けれる力があるのか!
・変化が怖い!(地域住民)
・経済効果が期待
ケネン
MICE
期待:地域を世界色々な人達に
知ってもらえる。
懸念:税金など、県外の企業などに
なり、地元の企業はどうなるのか?
:アフターMICEをどうするか!
西原町は県内の企業の発展にこうけんした
町である(歴史的に→観光資源として伝えられようにしたい。
・ごみ 環境問題
地域が思う街になるのか?
・市民がどうしたいのか考えて!
・暮らす町がうるさくなる!
・道路渋みを市民目考えよう!
・県外体験